

森の記憶

2006年10月14日 東工大 OLT 杯 / 10月15日 中日東海 B 大会

木村佳司

秋の行楽日和はオリエンテーリング。気持ちのよい青空と、紅葉を、どんなスポーツよりも楽しむことができる。



昭和の森を走るとき、気分はエミル・ウイングシュタッツ (SWE)。世界選手権 2005/2006 スプリント覇者。
写真：2005年8月昭和の森にて

世界選手権の記憶

2006年10月15日
第48回中日東海ブロック大会
愛知県豊田市にある公園「昭和の森」に到着すると、見覚えのある風景とともに一気に記憶が蘇ってきた。

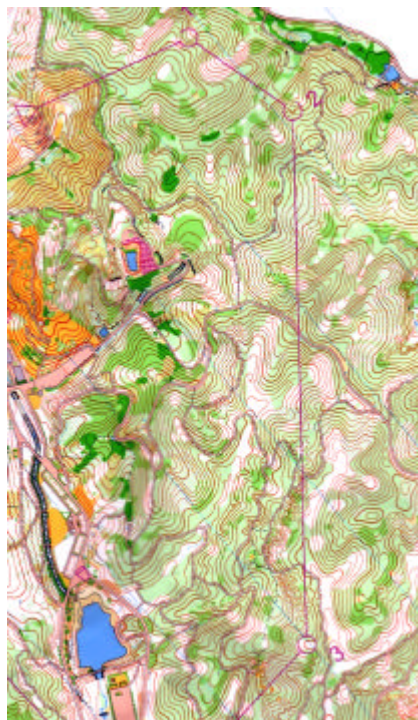
2005年夏。女王・シモーネが愛知世界選手権で最初のコメダルを獲得したのはここだった。思えば彼女の4種目完全制覇はこの「昭和の森」から始まった。

日本選手団の女子3名が全員予選を突破したのも、ここだった。宮内、田島、皆川の笑顔。それと対照的な日本男子の無念さ。松澤、小泉の力走。決勝に進んだ山口大助の走り。

もう10月も半ばなのに、晴天のせいかわかからない天候となった。この暑さが、よりリアルに記憶を呼び覚ました。2005年8月の暑かった日と、世界の選手のダイナミックな走りが、つい先日のように思い起こされる。

中日東海大会が一旦終了したあと、世界選手権スプリント男女決勝コースが用意され、体験できるようになっていた。実際に走ってみて、別段難しいコースだとは感じなかったが、見通しの利かない森をスプリントのスピードで走るストレスを感じることができた。しかもトップ選手のエミルは私の2倍の速度でこれを走り抜けている。改めて身震いする思いだった。

その世界選手権の地図遺産を活用した中日東海ブロック大会。1:5,000の地図が使用され、ダイナミックなコース設定ながら細かいコントロール位置が使用された。ナビゲーションとスピードが問われるコース設定で世界選手権のトレインを堪能できた。



地図はスプリント仕様だがレグは長い。ルート選択が勝負を決める。
(中日東海ブロック大会)



白く表わされた瑞牆の深い森が、赤や黄色に色づく。至福の森の、至福の時間。

瑞牆の記憶

2006年10月14日 東工大 OLT 杯

昭和の森を走る前日に行われたのが、東工大 OLT 杯。東京工業大学のクラブとOBのための会内杯だが、一般にも参加の門戸を開いている。ありがたや。

開催地は山梨県の「瑞牆の森」(みずがきのもり)。山梨県の遥か山奥。標高が高いせいか少し寒い。トレインの木々はすっかり色づいていた。生長した白樺や広葉樹、針葉樹が広がるトレインは通行可能度もバツグン。3年前に作成された高精度地図に加え、トレインを活かしたコースが組まれていた。

深い森の中でナビゲーションに没頭しているうちに、厳しいはずの登りもいつのまにかこなしている。薄い空気に喘ぎながらフィニッシュの芝生広場に倒れこむと、雲をまとった瑞牆山の岩峰が目前に迫っている。

ここでも3年前の東日本大会での歓声を思い出す。あの時ここは須玉町だった。町をあげてオリエンテーリング大会に協力いただいた。あれからわずか3年。平成の大合併で須玉町は消滅した。今は北杜市の一部だ。森は変わらないけど人の世はどんどん変わってゆく。

フィニッシュの芝生広場はいつのまにか紅葉狩の団体客に囲まれていた。

(木村佳司)